

第1講

5世紀：巨大な古墳の時代 －「天下」の大王が誕生する－（2013年度）

次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

- (1) 『宋書』には、478年に倭王武が宋に遣使し、周辺の国を征服したことを述べ、「使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事安東大將軍倭王」に任じられたと記す。こののち推古朝の遣隋使まで中国への遣使は見られない。
- (2) 埼玉県の新倉山古墳から出土した鉄剣の銘文には、オワケの臣が先祖以来大王に奉仕し、ワカタケル大王が「天下を治める」のをたすけたと記す。熊本県の江田船山古墳出土の鉄刀銘にも「治天下ワカタケル大王」が見える。前者の銘文は471年に記されたとする説が有力である。
- (3) 『日本書紀』には、雄略天皇を「大泊瀬幼武〔おおはつせわかたける〕天皇」と記している。「記紀」は、雄略天皇をきわめて残忍な人物として描き、中央の葛城氏や地方の吉備氏を攻略した伝承を記している。
- (4) 475年に百済は高句麗に攻められ、王が戦死していったん滅び、そののち都を南に移した。この戦乱で多くの王族とともに百済の人々が倭に渡来した。さまざまな技術が渡来人によって伝えられ、ヤマト政権は彼らを部に組織した。

設問

5世紀後半のワカタケル大王の時代は、古代国家成立の過程でどのような意味を持っていたか。宋の皇帝に官職を求める国際的な立場と「治天下大王」という国内での称号の相違に留意しながら、6行（180字）以内で説明しなさい。

解いてみましょう (第1講)

1 問われている (求められている) ことを確認する。

ア

が

イ

について書く。

その際に、

ウ

に留意して書く。

エ

に留意して書く。

オ 6行 (180字) 以内で書く。

2 資料と教科書とを照らしあわせる。

(1) まずウの留意点について触れている資料は、 である。

この資料の内容に関する教科書 (プリント) の記述をマーカー等でチェックする。

(2) 次にエの留意点について触れている資料は、 である。

まず、資料中で、キーワードとなると考えられる語句をマーカー等でチェックする。

次に、チェックした部分に関する教科書 (プリント) の記述をマーカー等でチェックする。

※ 注意 (1)と(2)の両方に関する資料があります。

3 教科書 (プリント) にチェックを入れた部分を、アとイの要求に答えられるように並べて、文章をつくっていく。

4 最後に、180字になるように要約する。

次のページに、空欄に入る語句や該当する教科書のページ・行を記しています。

(推理小説でいうと、探偵が謎を明かしていく部分です。自力で犯人 (解答) を当てたい方は御注意ください。)

第1講の解き方（詳細） 【 謎解きの部分です 】

1 問われている（求められている）ことを確認する。

ア 5世紀後半のワカタケル大王の時代

が

イ 古代国家成立の過程で持つ意味

について書く。

その際に、

ウ 宋の皇帝に官職を求める国際的な立場

に留意して書く。

エ 「治天下大王」という国内での称号の相違

に留意して書く。

オ 6行（180字）以内で書く。

2 資料と教科書とを照らしあわせる。

(1) まずウの留意点について触れている資料は、 (1)と(4)の前半 である。

この資料の内容に関係する教科書（プリント）の記述をマーカー等でチェックする。

26 ページの 10～15 行。27 ページの 3～6 行。32 ページの 19～22 行

(2) 次にエの留意点について触れている資料は、 (2)、(3)、(4) である。

まず、資料中で、キーワードとなると考えられる語句をマーカー等でチェックする。

資料(2)と(3)では「中央や地方の有力豪族を攻略」、「埼玉県の豪族が先祖より大王に奉仕」、「熊本県で「治天下大王」の称号」の部分。

資料(4)では、「多くの王族とともに百済の人々が倭に渡来した。さまざまな技術が渡来人によって伝えられ、ヤマト政権は彼らを部に組織した。」の部分。

次に、チェックした部分に関係する教科書（プリント）の記述をマーカー等でチェックする。

資料(2)、(3)は、29 ページの 10～12 行。32 ページの 17～26 行
資料(4)は、27 ページ7行～28 ページ6行。33 ページの 2～7 行

さらに、次の部分に注目してください！（次ページ）

資料(1)の最後、「こののち推古朝の遣隋使まで中国への遣使は見られない。」

ワカタケル大王という5世紀の話をしているのに、推古朝の遣隋使とは、厩戸王（聖徳太子）の時代（7世紀前半）のことです。この部分、浮いているとは思いませんか？

東大の日本史の入試問題には、

2 示される資料に過不足はありません。

教科書の36ページの1～3行。小学校の教科書にも載っている内容です。

東大の日本史の入試問題には、

3 「歴史の本質をとらえなさい」というメッセージが込められています。



この小学生でも知っていることが、今回のポイント（歴史の本質）です。

抜き出したものをまとめる

ウ 宋の皇帝に官職を求める国際的な立場

資料(1)、(4)と教科書より

高句麗が南下策を進めると、(略) 朝鮮半島南部をめぐる外交・軍事上の立場を有利にするため、(略) 中国の南朝に朝貢している。



高句麗との対立の中で、朝鮮半島南部をめぐる外交・軍事上の立場を有利にするため

ア

エ 「治天下大王」という国内での称号の相違

資料(2)、(3)と教科書より

これは各地の豪族が連合して政権をつくる形から、大王を中心として近畿地方の勢力に各地の豪族が服属する形へ、ヤマト政権の性格が大きく変化したことを示している。

5世紀後半から6世紀にかけて、大王を中心としたヤマト政権は、関東地方から九州中部におよぶ地方豪族をふくみ込んだ支配体制を形成していた。
倭の王権が勢力を拡大して(略) 地方豪族たちを服属させたという記事が見える。



イ

資料(4)と教科書より

ヤマト政権のさまざまな記録や出納・外交文書などの作成にあたったのも史部などよばれる渡来人たちであった。また新しい知識・技術を伝えた渡来人たちも、伴造や伴に編成され、品部の集団がそれを支えた。



ウ

資料(1)の最後、「こののち推古朝の遣隋使まで中国への遣使は見られない。」

教科書より

中国との外交も遣隋使の派遣により再開され、(略) この時の隋への国書は倭の五王時代と異なり、中国皇帝に臣属しない形式をとり、煬帝から無礼とされた。



推古朝では、中国皇帝に臣属する

<KEYWORD> 「冊封体制 (さくほうたいせい) 」

中国の皇帝が、儒教思想をもとにして周辺諸国の支配者との間で形式上の君臣関係を結び、形成された国際秩序。まずは周辺諸国の君主が中国皇帝に朝貢使節を送り、それに対して中国の皇帝が位階(王・諸侯などの称号)や返礼品を与えることで成立した。

19世紀アヘン戦争に敗れるまで、中国が対外政策として取り続けた。

<ポイント>

中国皇帝に朝貢(貢ぎ物を持って行き、臣下と認めってもらうこと)ができるのは、一国の王のみ。

つまり、中国皇帝が朝貢を受け入れてくれたということは、国際社会でその国の王と認められたことを表す。

3世紀に卑弥呼が魏に遣いを送ったのは、中国皇帝の權威をかりて国内の対立する勢力に対して、自分が「倭国の王」であることを認めさせるためであった。

まとめ

5世紀：巨大な古墳の時代 とは

という時代であった。